

第2節 戦略的推進プロジェクト

第1節の分野別計画に加え、将来像の実現に向けて総合計画の実効性を高めることと、町民のニーズや人口減少など町の状況の変化を踏まえ、5年間で戦略的かつ優先的に取り組んでいく必要がある政策をピックアップし、「戦略的推進プロジェクト」として取り組んでいきます。推進にあたっては、分野別計画の分野及び組織を横断して取り組み、相互に関連性を持たせることで相乗効果を発揮するよう努めます。

1 安全でスムーズな移動ができるまちづくり

現状と課題

小布施町はコンパクトな町であり、高低差が小さいことや、長野市や須坂市などと隣接していて交通の便がよいという地理的条件から、町内の公共交通手段が電車のみであっても、移動の問題がこれまで大きな課題になってこなかった経緯があり、町内における移動手段は自家用車に頼っている現状があります。第1章第3節「3 町民アンケートによる町民の意向」図表24にあるとおり、町民アンケートにおいて、小布施町に対して感じる問題点は、「生活をする上で必要な公共交通が確保されていない」とする回答が45.6%で、最も多くなっています。第1章第3節「2 人口動向」(2) 年齢3区分別人口や「5 人口の変化が地域の将来に与える影響」(2) 医療・福祉への影響で分析しているように、年齢3区分別人口の変化を見たときに、生産年齢人口が減ることで交通サービスの担い手が不足し、また老年人口の割合が大きくなることにより、移動に係るニーズは今後さらに増加することが予想されます。年齢や身体状況などにより歩行に不安のある人や、運転免許証を返納した人に加え、商業施設や公共施設から離れた地域に住む人も不便なく暮らせるよう、公共交通を含めた移動手段の確保に取り組んでいく必要があります。

プロジェクトの方向性

他市町村の事例を研究し、地域の交通事業者の意向を踏まえ協議を続けながら、移動に不安のある人が自家用車に頼らずとも安心して移動でき、町の地理的条件や事情に合った公共交通のあり方を検討していきます。検討にあたっては、町民のニーズを把握・分析し、その反映に努めます。公共交通以外にも、民間との協働によるライドシェアやカーシェアリング、シェアサイクリングなども考えられます。

併せて、車道・歩道の除雪対策や歩道の段差解消、点字ブロックや音の出る歩行者用信号機の設置など、移動を後押しして、誰もが安心して移動できる公共インフラを整備することも検討します。

さらに、町民の移動がスムーズに行えるよう、自家用車や大型バスで訪れる観光客が集中する繁忙期における北斎館周辺を中心とした国道403号や小布施スマートインターチェンジ付近などの交通渋滞の緩和にも取り組みます。

2 地域資源を大切にしながら新たな価値を創造するまちづくり

現状と課題

第1章第3節「3 町民アンケートによる町民の意向」図表22にあるとおり、町民アンケートにおいて、小布施町に対して感じる魅力、好きなところは、「町外の人から「小布施っていいよね」と言われることがある」が60.6%で最も多く、次いで「山や緑など自然環境に恵まれている」が49.0%、「観光資源や歴史的資産に恵まれている」が40.6%となっています。急激な総人口の減少や、第1章第3節「2 人口動向」にあるように市街化調整区域の人口の減少、高齢化などの課題に直面する中、小布施町の地域資源を新たな視点で見直し、最大限にその魅力を引き出し、人々を惹きつけて、活気あるまちづくりに取り組んでいく必要があります。

また、町並み修景事業や格調ある住まいづくり、うるおいのある美しいまちづくり条例の制定などの取り組みによって、小布施町ならではの美しい町並みが形成されてきました。さらに町民の協力により展開しているオープンガーデンにより創出された花と緑が豊かな庭先が、町を訪れる人の心を和ませ、心地よさを感じさせています。人口減少や高齢化により、オープンガーデンのオーナーの減少や空き家が増加する中、これまで築いてきた町並みや景観を後世に残し、継承していく必要があります。

プロジェクトの方向性

小布施の先人から引き継いだ時代を先取りする先見性と社交性で、小布施ならではの地域資源を大切にしながら、新たな価値を創出します。

豊かな花や緑、そして自然風景と調和した町並みや景観で人々を迎えるうるおいのある美しいまちを目指し、町民や事業者と一緒に取り組みます。ここに暮らす私たちの生活に豊かさをもたらすとともに、訪れる人々にとっても心地よい空間であることで町外の人々が町に何度も訪れ、賑わいやつながり、交流が生まれるまちづくりに取り組みます。

また、自然、伝統、歴史文化、景観、農産物、特産品、人材等の小布施町ならではの地域資源を活用し、地域ブランドの構築や情報発信を積極的に行い、産業を活性化させ、人口の流入を促すよう取り組みます。人口減少等により、今後は空き家の増加が見込まれる中、空き家を地域資源と捉え、その利活用を検討していきます。



3 気候変動に対応したまちづくり

現状と課題

第1章第3節「1 計画策定の前提となる社会背景」にあるように、近年、世界で頻発している集中豪雨や猛暑など地球温暖化に起因する異常気象や化石燃料の枯渇などの地球環境問題は、全世界共通の最優先かつ喫緊の課題の一つです。小布施町の恵まれた自然環境を守るためには、町民・事業者・行政が危機意識を共有し、連携して取り組む必要があります。

小布施町では、令和元年台風19号により甚大な被害を受け、日頃何気なく暮らしている生活基盤がいかにも揺らぎやすいものであるかということを再認識しました。町での生活とその将来を守るため、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボン宣言」を長野地域連携中枢都市圏の9市町村の共同で発出し、令和4年度には小布施町環境グランドデザインを策定しました。

私たちがさまざまな立場から環境問題に取り組むことで、経済・生活の基盤を守り、安心・安全でより豊かな暮らしと災害に強いまちづくりを目指すことが必要です。

プロジェクトの方向性

小布施町環境グランドデザインで定める4つの取り組み（「ゼロ・カーボン」、「ゼロ・ウェイスト」、「防災・レジリエンス^{*36}」、「サステナブルな（持続可能な）観光」）と9つのアクションの実現に向けて、町民とともに取り組みを推進していきます。また、気候変動により農産物の品質低下や収量の減少、病害虫の発生の増加、栽培適地の変化等、当町の基幹産業である農業にさまざまな影響が及ぶことが想定される中、変化する気候条件に適した新しい作物の導入などの適応策や、激甚化する自然災害に対するソフト面とハード面が一体となった防災・減災対策に、関係機関と連携しながら総合的に取り組んでいきます。同時に、私たち一人ひとりがごみの分別ルールを守ることや使い捨て容器をなるべく使わないことでごみの削減や二酸化炭素の排出を抑えることなどが考えられます。

町民の環境に対する意識の醸成をさらに進め、町民一人ひとりが地球温暖化について考え、環境にやさしいまちづくりに向けて身の回りのできることから実践していくように取り組みます。

^{*36}「回復力」「しなやかさ」を表す言葉で、防災面では、「災害を乗り越える・復旧する、コミュニティや社会の力」を指す。

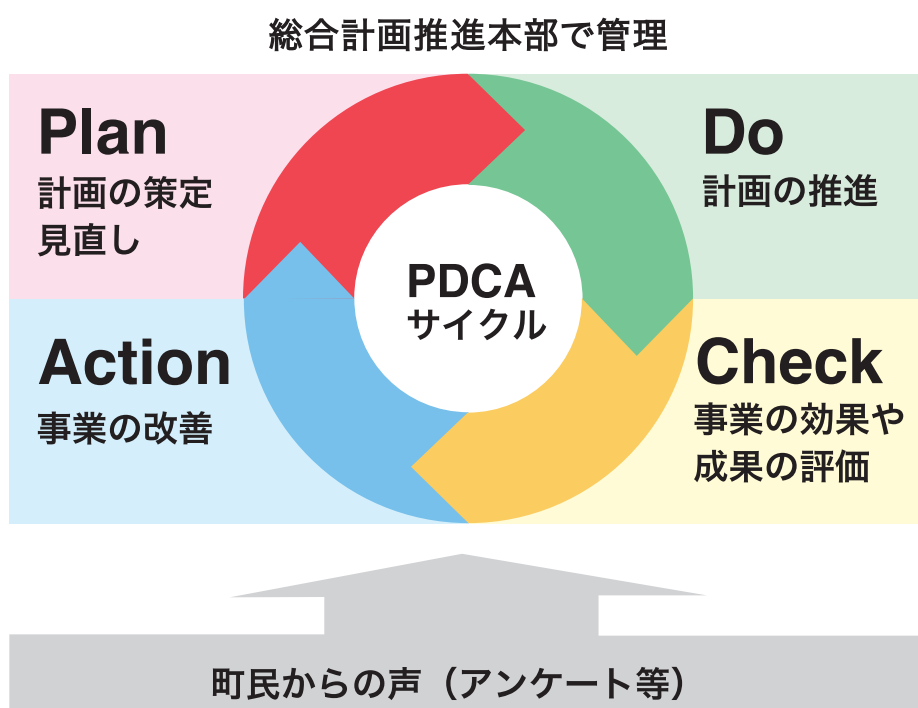
第3節 計画の推進体制及び進捗管理

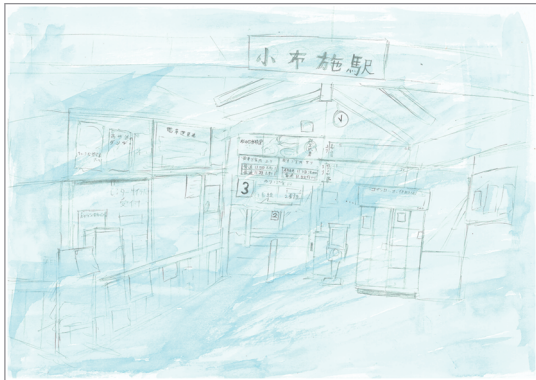
将来像の実現に向け、本計画を効果的かつ効率的に推進するため、進捗管理の方法と、これを推進していく体制を整える必要があります。

推進体制としては、主に推進状況の確認、効果的な推進の手法の検討、推進に向けた予算の重点的な配分などを任務とする総合計画推進本部を企画財政課内に設置します。

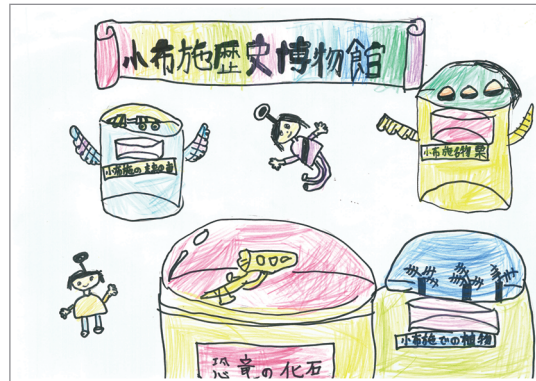
進捗管理については、おおむね1～2年ごとに一回、分野別計画ごとに設定した達成目標（重要業績評価指標（KPI））によって計画の推進状況を客観的に評価・検証するとともに、行政評価の結果も活用し、より効果的に施策を展開するための手段（取り組みや事業）を改善するPDCAサイクルで管理します。計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のサイクルを継続的に繰り返すことで、総合計画の円滑な推進を図ります。

さらに、町民に向けたアンケート調査等の実施により、施策や事業についての評価や町民ニーズの把握と行政課題の抽出・検討を行い、施策に反映させることとします。





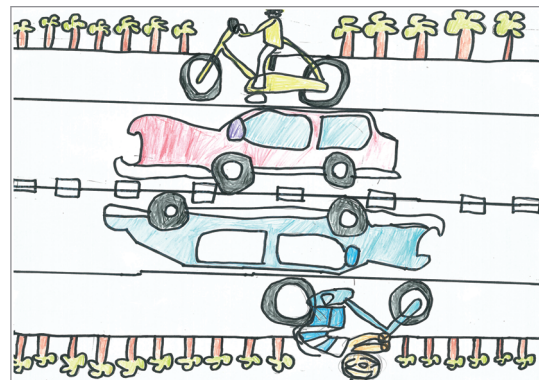
「私の好きな小布施駅」
酒井 映月 小布施中学校



「未来の博物館」
田中 希海 小布施中学校



「スカイ
空ライン（スラックライン）」
原澤 千愛 小布施中学校



「自転車も安心道路」
湯本 晃広 小布施中学校